

【写】

6 台 監 第 1 0 0 号
令和 7 年 3 月 2 8 日

殿

台東区監査委員	畑	克	海
同	太	田	龍彦
同	拝	野	健

令和 6 年度 定期監査（事業所、学校等）の結果について（報告）

地方自治法第 1 9 9 条第 1 項及び第 4 項の規定に基づき、標記監査を実施しましたので、この結果を同法第 1 9 9 条第 9 項の規定により、別紙のとおり報告します。

1 監査期間

(1) 事業所

令和6年8月28日（水）～令和7年3月28日（金）

(2) 小学校、中学校、幼稚園

令和6年11月28日（木）～令和7年3月28日（金）

2 監査対象

(1) 事業所

西部区民事務所、北部区民事務所、西部区民事務所谷中分室、北部区民事務所清川分室、入谷地区センター、雷門地区センター、坂本保育園、浅草橋保育園、台東保育園、三筋保育園、東上野保育園、松が谷保育園、男女平等推進プラザ、環境ふれあい館、検査センター

(2) 小学校、中学校、幼稚園

平成小学校、東泉小学校、谷中小学校、黒門小学校、浅草小学校、蔵前小学校、田原小学校、御徒町台東中学校、忍岡中学校、竹町幼稚園、田原幼稚園、台桜幼稚園

3 監査の範囲

主として令和5年度から令和6年度にかかる財務等における事務の執行状況及び施設の管理運営が、法令等に基づいて適正かつ効率的に行われているかどうかを主眼として実施した。

4 監査の方法

監査委員は、関係部課長、事業所長、学校長、園長から事務事業の運営状況及び予算の執行状況等の説明を聴取し質疑応答を行い、監査を実施した。

また、事務局職員は監査委員の命を受け、監査対象事業所・学校等から関係書類及び帳簿等の提出を求め、調査及び事情聴取等の予備監査を行い、その結果を監査委員に報告した。

予備監査における主な確認書類

- (1) 職員服務関係書類（出勤簿、休暇簿、超過勤務等命令簿、各種届出書等）
- (2) 旅費執行関係書類（旅行命令簿兼旅費請求内訳書、出張復命書等）
- (3) 経理関係書類（請書、各種整理簿、金券受払簿等）
- (4) 収入関係書類（施設使用許可・使用料減額免除申請書、収納金関係書類等）
- (5) 施設・備品管理関係書類（施設保守点検報告書、供用備品現在高一覧表等）
- (6) 給食関係書類〔※保育園〕（賄材料納品書、仕入帳等）

5 監査の結果

提出された関係書類等を基に、事務事業の執行状況や施設の管理運営等について監査したところ、おおむね良好に行われており、特に、指摘・指示を要する事項はない。但し、軽微ではあるが次のような口頭注意事項があったため、今後の適正な事務処理等に留意されたい。

<事業所>

(1) 口頭にて注意した事項

①年次有給休暇取得時の旅費申請について

旅行命令後に年次有給休暇を取得した場合、有給休暇後の旅費は支給されないが、誤って旅費の申請がされていた。旅費の申請にあたっては、適正な事務処理に努められたい。

②施設の維持管理について

排煙窓や非常用照明についての不具合がみられた。排煙窓については、開閉装置を操作しても作動しないもの、あるいは物品の設置により開閉装置の操作が困難になっているものがみられた。非常用照明については、設備的な老朽化やバッテリー切れにより、不点灯なものがみられた。

その他、外壁等の劣化（ひび）に起因した雨漏れや、鉄製外部手すりのサビによる劣化、ブロック塀等の傾斜などがみられた。計画的な施設の維持管理に努められたい。

<学校等>

(1) 口頭にて注意した事項

①服務関係書類の事務処理について

- ・旅行命令簿の出張時間の誤記載
- ・休暇簿の記載不備
- ・出退勤の打刻エラー修正がされていないもの
- ・超過勤務命令簿や旅行命令簿を修正液で訂正しているもの

②経理関係書類の事務処理について

- ・印刷製本費の支出書類に成果物が添付されていないもの

③施設関係について

- ・各所排煙窓の不作動
- ・屋上、バルコニー等のドレン（排水口）の清掃不良・詰まり
- ・防火扉・防火シャッター付近への荷物の放置
- ・屋上目地に雑草やコケが生えている事例

6 監査委員との主な質疑応答

(1) 事業所

監査対象事業所	男女平等推進プラザ
監 査 実 施 日	令和6年10月11日（金）
主な質疑応答（Q：監査委員 A：事業所）	
Q	男女平等推進プラザ管理運営について、企画室の利用は登録団体なら良いのか。
A	登録団体でなくても借りられるが、登録団体は減額になる。
Q	推進フォーラム企画委員会など3つの委員会があるが、委員はどれも公募か。また、謝礼はいくらでどのような方が委員になっているのか。
A	公募である。謝礼は年度末に1回の支払いで2,500円であり、ボランティアのようなものである。地域に貢献したいという方たちが多く、男女比では女性の割合が高い。
Q	はばたき21相談室の相談件数は増えているのか。増えていれば、その理由は何か。
A	相談件数は増加している。令和3年度までは、電話のみの相談であったが、令和4年度から面談での相談を行うようになった。電話では話しにくい、面談なら相談したいという方が多かった。
Q	はばたき21通信はどのように配布しているか。
A	区内の施設には置いている。また、他区の女性センターに送付している。
Q	ワーク・ライフ・バランス推進企業について、14社ヒアリングして13社認定ということだが、なかなか認定は難しいのか。
A	申請する企業は意識が高く、十分な準備をしてくるので、そこまで難しくはない。
Q	ワーク・ライフ・バランス推進における専門コンサルティング訪問とコンサルティング訪問の違いは何か。
A	労基署関係の相談であれば、社労士による「専門コンサルティング訪問」となる。一般的な情報提供の場合は「コンサルティング訪問」となる。
Q	男女平等推進行動計画改定についての意識調査の回収率が36.6%ということだが、この数値はどうなのか。
A	業者に聞くと他区より高いらしい。5年前と比べ、オンラインの回答方法も取り入れたが、結果はさほど変わらなかった。

監査対象事業所	環境ふれあい館
監 査 実 施 日	令和6年10月11日（金）
主な質疑応答 （Q：監査委員 A：事業所）	
Q	ライオン(株)と一緒に行ったイベントにおいて、『水』をテーマにしたということだがどのようにテーマを決めたのか。
A	こちらは環境をテーマにしているが、ライオン(株)は生物多様性をテーマとしている。それを踏まえて話し合い、『水』をテーマに決めた。6年度も同じテーマにしているが、今後も同じということではない。
Q	事務監査において3階以上の非常用照明が不点灯であったようだが、老朽化ということか。子どもが利用する施設であることを考え、何か対策をしているのか。
A	28年間、大規模な改修を行っていないので設備の不具合がある。そのため、区の施設保全計画の中で、令和7年度～8年度に設備の更新を行うことになっている。指摘のあった非常用照明については、直ぐに対応していく。
Q	「環境、ごみ減量、リサイクル講演会」は清掃リサイクル課や清掃事務所でも行っているようだが、何が違うのか。
A	プロの漫才師を雇って、環境について面白く話をしてもらっている。全小学校の4年生を対象に行っている。
Q	インタプリターの活躍をよく聞くと、長く携わっているのか。また、特別な技能を有しているのか。
A	現在、インタプリターとして5名の女性がいるが、会計年度任用職員という性質上、入れ替わりはある。インタプリターの皆さんは特別な技能があるわけではないが、環境について意識が高く一所懸命に取り組んでいる。
Q	「学校や団体の受け入れ」とあるが、団体とはどのような団体か。
A	ごみの出し方やリサイクルについて、日本語学校の生徒を対象とした講義を行った。

監査対象事業所	西部区民事務所、西部区民事務所谷中分室、 北部区民事務所、北部区民事務所清川分室、 入谷地区センター、雷門地区センター
監 査 実 施 日	令和6年10月24日（木）
主な質疑応答 （Q：監査委員 A：事業所等 ）	
Q	各地域の抱えている問題や課題は何か。
A	西部 マンションの住民などは町会活動に参加してもらえず、町会役員の代替わりができず高齢化が進んでいる。 谷中 増加してきた外国人旅行者が狭い路地に入り込んだり、ごみのマナーが悪い。 北部 現役世代の役員が増え、会議などの日程調整が難しくなってきた。 清川 地域の高齢化率が高い。個人情報に関することを高齢の方に話す際に、大きな声になってしまう。 入谷 上野忍岡高校跡地や坂本小跡地の計画について、関係する地元町会の方から様々な意見をいただく。 雷門 外国人旅行者が、車道でスカイツリーを背景に写真撮影をするため、危険である。
Q	清川地区の簡易宿泊所は大分きれいになってきたようだが、リノベーションが進んでいるということか。
A	日韓ワールドカップ以降、外国人旅行者向け又はビジネスマン向けに、簡易宿泊所の転用が進んできた。
Q	区民館のトレーニング室の利用は、トレーナーが居る時間のみとなっているが何故か。
A	利用者には高齢の方も多く、安全確保のためである。
Q	集会室の利用率はどうか。
A	西部 下谷分館のホールは大変人気があり、抽選会は争奪戦となる。 谷中 谷中の多目的ホールの稼働率は高く、5割ほどである。 北部 集会室の利用率は低く、特に和室の利用は少ない。 清川 会議等で、利用する企業が少ない。また、コロナ禍で減少していたサークル活動による利用が以前のように増えてこない。 入谷 特にホールの利用率は62%と高い。これは閉鎖した隣接する老人福祉館の利用を引き継いでいるためである。
Q	入谷について、外国籍の方が多いが、その方たちの特徴はあるか。
A	窓口で外国籍の方はほとんど来ない。しかし、地域の盆踊大会に多くの外国籍の方も参加しており、まちなじんんでいる。

監査対象事業所	坂本保育園、浅草橋保育園、台東保育園、三筋保育園 東上野保育園、松が谷保育園
監 査 実 施 日	令和6年10月30日（水）
主な質疑応答 （Q：監査委員 A：事業所）	
Q	職員は足りているのか。
A	坂本 正規職員の不足を補う形で派遣職員が配属され、現在は足りている。 浅草橋 4月～9月、育休取得職員が4名いた。派遣職員で補ってきたが、派遣職員のできる業務が限定的なため、大変であった。 台東 園児が少ないこともあり、職員は足りていた。 三筋 育休取得中の職員が4人いるため、派遣職員で補っている。しかし、休みがちな派遣職員がいるため、十分ではない。 東上野 職員数は基準を満たしているが、育休取得や時短勤務の職員がいる。職員で相談し、体制の工夫を図っている。 松が谷 4月当初は3名の育休取得職員がいたが、現在は復帰し、足りている。時短の派遣職員に朝、夕の当番に入ってもらっている。
Q	台東保育園について、入所率が77.6%と、他の園より低く、保育の質について工夫できる状況と思われるが、どのような取組をされているか。
A	子どもを巻き込んで、子ども発信で行うべきと考えている。そこで、挨拶当番やエコパトロールを行っている。
Q	松が谷保育園について、児童館と併設であるが、児童館と一緒にやっていることはあるか。
A	コロナ後はあまりできてないが、今年は児童館のゲームコーナーで年長さんが一緒に遊ばせてもらった。年度末に児童館のイベントに年長さんが参加するようにしている。
Q	男性の保育士は何名いるか。また、男性保育士の育休取得状況はどうか。
A	坂本 1名（子どもが大きく、育休は取っていない。） 男性看護師が1名（現在育休中） 浅草橋 2名（1名が4月～9月まで育休を取り、10月から復帰） 台東 3名（1名育休中）派遣1名 三筋 0人 東上野 2名（育休は取っていない。） 松が谷 2名（育休は取っていない。）

監査対象事業所	検査センター
監 査 実 施 日	令和7年2月3日（月）
主な質疑応答 （Q：監査委員 A：事業所）	
Q	集会室の利用について、町会などが無料で利用しているのか。
A	町会の他、ボランティア団体や構成員の半分以上が15歳以下の社会教育団体が使用料免除で利用している。5年度における有料での利用は1件であり、近所のマンションが総会実施のために利用されたものである。
Q	検査センターの職員は現場に行って検体を採取したりするのか。
A	保健所の衛生監視員が採取した検体を検査センターで検査することになる。
Q	検査センターは23区全てにあるのか。
A	食品衛生法の規定により各保健所には検査施設を設けなくてはならないが、検査センターという名称でなく衛生試験所や検査室という場合もある。
Q	食中毒などの検査もするのか。
A	都区協定により、食中毒の原因物質及び原因食品等が確定するまでの検査は東京都で行うこととされている。結果が明らかになった後の対応は区でも行う。
Q	井戸水の検査はするのか。
A	現在、検査はしておらず、台東区では井戸水は飲用しないことになっている。
Q	令和4年度から5年度にかけて、食品衛生検査が1.5倍くらい増加したが、何か状況の変化があったのか。
A	令和4年度は数か月間コロナ対応に職員が従事したため、食品衛生検査を中止していた時期があった。そのため件数が少なくなっている。
Q	決算額をみると令和5年度は減少しているが、検査件数が増えている。予算的に問題はないか。
A	監視計画による検査の予定件数に基づき予算を申請している。令和4年度は検査実施数が少なかったため、余剰となっていた消耗品を令和5年度に利用し、問題無く検査を行った。
Q	高額な検査機器の固定化など耐震対策を他の自治体では行っていないのか。この検査センターでも対策した方がよい。
A	やっている自治体もある。貴重なご意見ありがとうございます。

(2) 小学校、中学校、幼稚園

監査対象校(園)	黒門小学校
監 査 実 施 日	令和7年1月24日(金) 13時30分
主な質疑応答 (Q: 監査委員 A: 校(園)長)	
Q	着任してから変えたことは何かあるか。
A	教育内容の可視化という観点から、毎日HPをアップしている。
Q	今年8月の水道料金が低い理由は何か。
A	子どもの居場所づくりとして、放課後子供教室を始めたためである。夏休み期間も実施している。
Q	共通テストについて理科の点数向上に何か考えはあるか。
A	自然のない環境なので観察などが難しい。学校の花の広場を活用したいと思っており、少しずつ整備を進めている。
Q	ICTを使った学習のメリットをどう認識しているか。また、教員によって差があるか。
A	プレゼン資料やポスター作製などで、児童の表現力・発表力が身についていると思う。なお、本校においては、教員による差はあまりない。
Q	特別支援について理解が進むような工夫は何かしているか。
A	各特別支援教室の教員が年1回以上各学年で授業をしたり、道徳の授業を通じて共生についての意識を深めている。
Q	保護者アンケートはどのくらいの頻度で行っているか。また、内容はどのようなものか。
A	年8回行っている。内容は子供を見てどのように育てているかという点と学校全体の状況についてである。
Q	タブレットは家庭でどんな学習に使っているか。
A	ドリルを宿題にすることが多い。また、プレゼンなどをまとめることに使っている。
Q	学年横断行事で全校遠足は昔から行っているものか。
A	開始した時期はわからないが、縦割りのグループで電車を使って移動し代々木公園まで往復することをしている。
監査委員からの意見・要望	
・学校だよりの内容がよいので、続けてください。 ・HPが充実していた。栄養士の先生が給食の記事を載せていたのがよい。	

監査対象校(園)	平成小学校・竹町幼稚園
監 査 実 施 日	令和7年1月24日(金) 14時30分
主な質疑応答 (Q: 監査委員 A: 校(園)長)	
平成小学校	
Q	平成小学校ならではの特色は何か。
A	子どもを預かる側の教員の意識が高いこと、休み時間に整列して教師が校庭に先導し、児童が廊下を走らないことや、新学期が始まる前にAEDの使用、アレルギー対応訓練、不審者対応訓練を毎年実施していることが挙げられる。
Q	外国籍のこどもは義務教育ではなく、学校に通う権利があるだけだが、途中で離脱したり、来たり来なかったりということはないか。
A	このまま日本で生活をしたいという家庭の子が多いので、通い続けている。宗教の関係で給食が食べられないということはあるが、栄養士が保護者とやりとりをして、主食が食べられないから代わりの食事を持参するよう、除去食対応をしている。代替食は行っていない。
Q	予算で魅力ある教育活動の推進で用途が学力調査とある。こういった観点から重視することになったのか。
A	区や国で学力調査を行っているが、2学期に入ってから結果がくる場合もある。4月当初に国語、算数の学力調査を行い、6月には結果が返ってくるので1学期中に改善するためのプランを立て、2学期に授業改善を行うことができる。
Q	魅力ある教育活動の推進で5年生の箏教室はどこで習っているのか。
A	学校で実施し、全員が箏を演奏できるようになることが特色となっている。
竹町幼稚園	
Q	外国籍の園児の保護者が多いと思うが、コミュニケーションは取れているか。
A	外国籍の保護者は園イベントやPTA行事には積極的に参加してくれており、日本語のやり取りが難しい中でも協力的である。
Q	教育委員会の提案で、配慮を要する子どもや医療的ケア児の受入体制を強化するとあった。配慮を要するお子さんは実際にいるのか。
A	全面的に支援が必要な園児の他、場面によって個別に配慮を要する園児も在園している。
監査委員からの意見・要望	
平成小学校で取り組んでいることで児童が増えているので、併設の幼稚園に通わせたいという保護者もいると思う。ぜひすでに行っている未就園児対象の集まり等も続け、園児数が増えることを願っている。	

監査対象校(園)	東泉小学校
監 査 実 施 日	令和7年1月27日(月) 13時30分
主な質疑応答 (Q: 監査委員 A: 校(園)長)	
Q	着任してから変えたことはあるか。
A	着任当時はコロナ禍で学校のあるべき姿がなかった。校内が静かで暗かったので、グループを組ませて音楽をさせるなどして少しずつ回復させた。
Q	異年齢集団活動とはどういうものか。
A	学年を縦割りした活動で、クラスでは意見を言えない子が活発に行動するようになった。
Q	特別支援学級を通して教育方針がどう変わったか。
A	特別支援対象の子を見たことがない児童がいる。まず教員が特別支援教育に詳しくならないといけない。子供達には、お世話するのではなく、共に生きることが大切だと教えている。
Q	児童本人の努力が必要か。
A	困っているときに助けを求められる子になるようになってほしい。周りが察してあげたり、声掛けしたりすることも大切である。
Q	「教職員全員が全児童担任意識」とはどういうことか。
A	教員が児童全員の名と顔を覚えることを課している。名を呼んでもらえると子供は安心するし、喜ぶ。
Q	毎年の委託料の使い道は何か。
A	屋上にある周年サインを毎年更新しているためである。
Q	オーケストラに参加している子としていない子の違いはあるか。
A	違いはない。親がやっていた子もいるし、憧れで入った子もいる。先輩が師匠として教えており、音楽が苦手だった子も成長している。

監査対象校(園)	忍岡中学校
監 査 実 施 日	令和7年1月27日(月) 14時35分
主な質疑応答 (Q: 監査委員 A: 校(園)長)	
Q	伝統文化の学校行事に触れる会の開催場所はどこか。
A	生涯学習センターのミレニアムホールを借りている。圓滿さんとお弟子さんやお友達に来ていただいて、落語だけでなく紙切り、太神楽などの芸を見せていただいている。
Q	着任後、改革されたことはあるか。
A	授業改善プランを9月末までに教育委員会へ提出するが、それだと前期が終わっている状況があるので、学力調査が終わった段階で各教科に学力の分析をさせている。それを早い段階で授業改善に活かせるように夏休み前までに完成させている。また、多様な学習機会の提供になるため、英語検定を始めた。耐寒訓練のやり方について、コロナ禍以降持久走のみ実施していたが、剣道、柔道を実施していた経緯があるので、剣道、柔道に携わってきた方も呼んで、耐寒訓練期間中に指導していただける状況にした。
Q	教育方針重点目標等の幅広い学力の育成の中にICTを利活用した指導の工夫と個別最適化とあるが、個別最適化は具体的に何を指すか。
A	授業の中で全体指導とともに個別指導の対応をすることを指している。ICTを利活用することでよりやりやすくなり、個の意見が活かされるなどの効果があげられる。
Q	幅広い学力の育成の中に学力の客観的把握とあるが、学力テストは国、都、区で科目が違うが調査の結果を使い、全国平均と比べているのか。
A	平均でなく、個々に学年やクラスの傾向としてつまずきやすいところなどを把握するものである。
Q	午後4時から5時の忍寺子屋は学力向上推進ティーチャーが来ているが、ICTを使用しているのか。
A	基本的に生徒が課題を持ち込む。タブレットを持ち込む生徒もいれば、教材を持ち込む生徒もいてまちまちである。
Q	図書室の蔵書数がかなりあるが、8時20分から10分間の朝読書は図書室から本を借りるのか。それとも自宅から本を持ってくるのか。
A	生徒本人に任せている。
Q	令達執行状況表の進路指導の充実に事業所謝礼用菓子折が計上されているが、インターンシップ的なものを何かされているのか。また、生徒を受け入れる事業所は学区域内にある事業所か。
A	職場体験を行っている。台東区内にある事業所である。

監査対象校(園)	蔵前小学校
監 査 実 施 日	令和7年1月31日(金) 13時25分
主な質疑応答 (Q: 監査委員 A: 校(園)長)	
Q	金管とオーケストラは何人くらいいるのか。また練習はどうしているか。
A	金管バンドドリルは6年生全員、オーケストラは4年生以上の希望者で90名弱である。朝練や夏休みを利用した個人レッスンなどを行っている。
Q	研究授業は毎年科目を変えているのか。
A	昨年度は全教科領域を対象とした。今年度は国語を行っている。
Q	校長として変えたことは何かあるか。
A	地域が大切にしていることは学校としても大事にしたい。年1回の教員による学校評価の際に変更可能なものは変えている。例えば一部の教員に仕事が集中していたので校務を洗い出して再分担した。
Q	インフルエンザなどの状況はどうか。
A	学級閉鎖は今年度ない。児童の衛生観念が上がっていると感じる。校内の24時間換気も効果があると思う。
Q	「環境漫才」について児童のリアクションはどうか。テーマは毎回変わるのか。
A	楽しく集中して学んでいる。受ける児童が変わるので、テーマは同じようなものである。
Q	帰宅困難者の問題で引き取り訓練についてどう考えるか。
A	確実に引き渡すことが大切である。昨年度9月に実施した訓練では来られない保護者がいたので、今年度は土曜日の公開授業の際に実施したいと考えている。
Q	環境ふれあい館を学習に利用していると思うがどのようにしているか。評判はどうか。
A	クラスごとに行っている。子供たちは楽しく学んでおり、放課後に行く児童もいる。
Q	児童数の多い学校について感想を聞かせていただきたい。
A	メリットは友達が多くできることである。デメリットは運動会をリバーサイドスポーツセンターでしかできないなど教育活動の工夫をしなければならないことである。
Q	体力の向上についての取り組みは何かあるか。
A	体育の授業の充実のため、跳び箱の研修会を開催したり、長縄のチャレンジをしたりしている。

監査対象校(園)	御徒町台東中学校
監 査 実 施 日	令和7年1月31日(金) 14時25分
主な質疑応答 (Q: 監査委員 A: 校(園)長)	
Q	コロナ禍の時期に着任して大変だったことは何か。
A	一番大変だったことは修学旅行を行うか否かの判断であった。実施するとしてもしないとしても、反対の意見を頂き苦慮した。しかし、これまで当たり前に継続してきたその他の事業の意味をあらためて確認する良い機会になったことも事実である。
Q	外国籍の生徒の状況はどうか。
A	増えている。全く日本語が分からないためタブレットを活用したり、日本語指導による指導をしたりしている。日本語習得を頑張って3カ月で作文が書けるようになった子もいる。
Q	クラブチームで活動する生徒の試合参加について配慮しているか。
A	実施要項が定まっている大会など、公式的なものであれば欠席にしないようにしている。
Q	霧ヶ峰移動教室だが、小学校のものと何が違うのか。
A	中学1年生を対象とした霧ヶ峰オリエンテーションを5月連休明けに2泊3日で行い、基本的な生活習慣を身につけることを目的としている。また、小学校からの申し送り事項の確認をすることができたり、新たな人間関係を築いたりできる機会となっている。
Q	部活動も勉強もやるとなると生徒が忙しいのではないかと思うがどうか。
A	文武両道ではあるが、学習を優先し、その上で部活動に取り組むように指導している。
Q	家庭訪問は実際にやっているのか。また、区外からの通学者に対しても行っているのか。
A	1年生を対象に家庭訪問を行っているが、区外からの通学者は対象としていない。
Q	霧ヶ峰勉強合宿は食堂で勉強するのか。また、講師をお願いする大学生は卒業生ということか。
A	勉強は研修室で行う。講師については、教員を目指す大学生・大学院生を募集しているが、近年は卒業生が講師を務めるようになってきた。
Q	体力向上に向けた取組はどのようなものがあるか。
A	体育の授業で補強運動を行っている。また、運動会では、行わない学校もある中で入場行進を実施し、基礎的な体力向上につながる取組を大切にしている。

監査対象校(園)	谷中小学校・台桜幼稚園
監 査 実 施 日	令和7年2月6日(木) 13時30分
主な質疑応答 (Q: 監査委員 A: 校(園)長)	
谷中小学校	
Q	着任して気づいたことは何かあるか。
A	谷中小の児童は子供らしい。但し、指示待ちの子が多いと思う。地域と一体化している学校であると感じている。
Q	道德教育の成果はどうか。
A	担任が年間定められている時間数の授業を確実に実施するように努めている。
Q	体力面の状況はどうか
A	50メートル走は全国平均からは低い。校庭が狭いので直線を走るのは難しい。不忍池周辺で持久走大会を実施している。
Q	人権教育で取り組んでいるものは何か。
A	他者とのかかわりを大切にしており、異年齢交流や「人権標語づくり」に取り組んでいる。近年、障がい者や高齢者などの理解教育に力を入れている。
Q	朝清掃をするのは珍しいが理由を教えてください。
A	朝から体を動かすことで一日を気持ちよくスタートさせることが大切だと判断したためである。
Q	経営方針で「六者たる教師」とあるが一般的な言葉なのか。
A	「五者」が一般的である。前校長の方針を引き継いで使用している。「六者」は五者に加え、教員一人一人がオリジナリティを持って目指す教師像を追求してほしいという考えからである。
台桜幼稚園	
Q	英語教育は今年度からか。講師はボランティアなのか。
A	昨年度からで今年度は本格的に始めた。講師には謝礼を払っている。
Q	預かり保育が来年度から委託になるのは何故か。
A	預かりの人材確保、教員数の関係で交代制にすると難しい(教員の負担軽減)ため、他区の事例なども参考にして区が決定したものである。
Q	独立園長になって変わったことは何かあるか。
A	以前は地域とのつながりが小学校を通してのみだった。まずは幼稚園を認識してもらうことを努力してきた。

監査対象校(園)	浅草小学校
監 査 実 施 日	令和7年2月10日(月) 13時30分
主な質疑応答 (Q: 監査委員 A: 校(園)長)	
Q	着任して変えたことは何かあるか。
A	学校経営の基本方針の中に「Well-Being (幸せ) を目指して」を加えた。子供達に感謝の気持ちとチャレンジ精神を伝えていこうと意識している。
Q	教育方針の中の「対話のステージ」について教えてほしい。
A	まず相手の方を向いて聞くこと、聞いたうえで自分の考えも持つこと、最後に自分からきちんと発信すること、の三段階でのスキルアップを目指している。
Q	東京リバーサイド学園との交流はどういうものか。
A	今年度はミャンマー他の留学生と4年生との交流だったが、少人数グループで出身国についての質疑応答が出来て、とても充実していた。
Q	人権教育で伝え方が大切だと思うが、教員の裁量によるものか、それともプログラムができているのか。
A	基本的にはプログラムができている。皮革産業の方や人権啓発センターの方たちに話を伺ったうえで、自分たちで調べたり相談したりしている。
Q	保護者アンケートはどのように行っているか。
A	情報配信システムを通じて行っているので比較的まとめやすい。
Q	教育方針の中の「主体性を育む」ことについて教えてほしい。
A	児童の意欲を高めるよう導入の工夫をすること、そして出会いを大切にすることである。
Q	評価について、どうほめるかが大切だと思うがどう考えているか。
A	一人一人を大切にすることが根底にある。一人一回は声をかけるよう努めている。
Q	浅草小の教育が進んでいるということで、保護者はこの学校を選んでいるのではないか。
A	教育の充実や安心して通わせられるということが代々伝わっていて積みあがった評判があると思っている。
Q	低学年に対してはどのような人権教育の授業をしているか。
A	「思いやり」や「仲良く」を主に教えている。ただ、友達を大切にすることはできているが、自己肯定感を上げていくことが難しいと感じている。

監査対象校(園)	田原小学校・田原幼稚園
監 査 実 施 日	令和7年2月10日(月) 14時20分
主な質疑応答 (Q: 監査委員 A: 校(園)長)	
田原小学校	
Q	良い点は残しながら、どのような点を変えていこうと考えているか。
A	基礎学力の定着を図っていききたい。言葉をあまり知らない子が多いので、読書や俳句など、言葉を多く知るための取組を行っている。また、端末を活用してICTを使ったドリルを導入している。
Q	ICT支援員は提案型なのかサポート型なのか。
A	両方であり、様々な提案をしてくれる。お金はかからず、とても良い人材である。
Q	ヤングケアラーを発見するためにはどうしたらよいか。
A	日記を読むと家庭の様子や放課後の児童の遊び方が分かってくる。
Q	小学校の校長と幼稚園の園長を兼務して、大変なことは何か。
A	遠足や対応すべきことも多くなる。そのため、副園長や副校長に園長・校長として頑張ってもらいたい。
田原幼稚園	
Q	教育目標の基本方針の中に、「非常時に危険を回避するための意図的、計画的な指導」とあるが、どのような指導か。
A	基本的に小学校と一緒に避難訓練を行っており、こんな時どのように逃げるかという話をしている。なお、来年度は小学校、幼稚園、地域と共に合同の避難訓練を実施する。災害時にどこの部屋をどのように使うか、どのように引き渡しを行うか、観光客を避難場所にどのように誘導するかなどについて、地域と話し合っている。
Q	寿児童館との連携について、子どもの放課後の居場所として連携をとっているのか。
A	もちろんである。教員が子どもを守れるのは学校にいる間だけなので、児童館や民生委員など地域が子どもを守ってもらうために連携をとっている。
Q	小学校に入ると幼稚園と違い、自己肯定感が下がり萎縮するといわれているが、この解消のためにどのようにしたらよいか。
A	小学校の先生が幼稚園教育を知らないなので、一緒に研修を行っている。1年生の学年会に幼稚園の先生に来てもらい、休み時間の遊びの方法なども考えるようにした。その結果、幼稚園から小学校にスムーズな移行ができるようになった。

7 まとめ

(1) 事業所

各事業所とも、コロナ禍で自粛していた各事業が概ね回復している。その中で区民事務所等では、町会役員の高齢化や町会活動に参加されない住民の増加などの課題を抱えている。保育園では育休取得者の欠員などにより職員が不足している状況であるが、工夫して業務を行っている。

また、老朽化の進んだ施設が目立ち、現場の工夫だけでは解消できない構造的、設備的な不具合が見受けられた。台東区施設保全計画に則った計画保全に加え、利用者の安全を優先した施設の維持管理に努められたい。

各事業所においては、さらなる区民サービス向上のため事務内容の見直しや改善の取組みを推進されたい。

(2) 小学校、中学校、幼稚園

各学校・園においては、教育目標と経営方針に基づき、基礎学力の定着や体力の向上、豊かな人間性の育成といったさまざまな課題に取り組み、教育内容の充実に努めており、校長・園長のリーダーシップのもと、それぞれ特色のある活動が行われていた。

今回の監査を通じ、各学校のICTを活用した授業の実施に加え、登下校の確認や学校と保護者間における連絡手段についてもデジタル化されており、双方向での活用が進められていることが確認された。開かれた学校づくりを更に進めていくためにも、デジタルツールを活用し、積極的に学校の情報を公開していくことは重要であり、このツールの利用に係る保護者の理解に向けた先生方の尽力に期待する。

また、教職員の欠員に伴う補充等の対応については、産休育休代替教員などの人材の確保ができず、副校長等の教員が役割分担しながら学級担任や教科の授業を行っている事例があった。各学校等が特色ある教育活動を推進できるよう教育委員会事務局は更なる支援を行い、環境の整備に努められたい。さらに、各教職員に係るワーク・ライフ・バランスの実践についても、引き続き進めていくことを願う。

今後とも、家庭や地域等との連携を図りながら、台東区の子どもたちが生涯にわたり学び続ける意欲とこれからの社会を生き抜く力を身に付けられるよう、教育環境の充実に向け全力で取り組まれていくことを望むものである。